

きないと思っている人も結構大勢いるようで、その81・8%が離婚後の経済的不安が原因で離婚を躊躇^{ためら}っているというところがわかりました（以下、子供が心配とする理由が36・4%、次に精神的消耗が27・3%と続きます）。なるほど、私の知人の女性たちは、きつと離婚後の妻の経済的な部分を案じていたのですね。しかし、我が家に関して言えばその点については心配無用なので、「うちの妻は大丈夫」という話をすると、たいいていの人は「それなら安心ね」と納得してくれるのです。

気になってさらに他のデータを読み進めると、当初私が思っていた離婚のイメージとは少々異なる意外な結果が見て取れました。たとえば、離婚後の生活の満足度についての問いに対しては、「安定して生活できている」という回答が48・1%、「なんとか生活できている」が31・6%と、概ね80%の離婚経験者は無事に生活できているような

のです。さらに「熟年離婚をして良かったと思いますか」との質問に対しては、ナント82・3%もの人が「良かったと思う」と回答しており、「もっと早く離婚を決断すべきだった」と思っていることがわかりました。つまり、もしも夫婦仲がオカシクなってしまった場合、経済的に困らずに、かつ、子供に心配をかけないという条件を満たすのであれば、離婚というのは総じて良い選択であるようなのです。

しかし冷静になって、離婚後の自分の生活というものを考えてみると、どう自分で頑張ってもどうしようもない大きな問題を抱えていることにハタと気が付きました。それは、離婚後私が引き取ることになった2匹の愛犬（私が親権ならぬ犬権を主張したのです）。特にそのうちの1匹は間もなく17歳になろうかという老犬で、既に白内障でほとんど目が見えていないうえに、最近では家のそこらじゅうで粗相をして

しまうのでオムツが欠かせないような状態なのです。そんな手のかかる扶養家族を抱えながら、私はこれまでのように気軽にフラッと飲みに行ったり終電で帰宅するようなことはできないでしょうし、そう気軽に旅行に行くわけにもいかないことでしょう。そうか：「子供が心配」ならぬ「犬が心配」という理由で老犬が亡くなるまで離婚を先延ばしにするという選択肢もありだったかな？　なんて、少しまだ戸惑いを隠しきれない今日この頃なのです。



Akira Saito

神奈川県川崎市出身。平成15年税理士試験に合格し、同年税理士事務所を開設。現在は、日本常任監事。波に乗りかかると「怖いくらいに未来のことがよく見える」と評判の霊視？の人の紹介してくれました。あまりの人気に予約が全く取れないのですが、その奥様がご自身で書きましますね。

【近況】顧問先の奥様が「怖いくらいに未来のことがよく見える」と評判の霊視？の人の紹介してくれました。あまりの人気に予約が全く取れないのですが、その奥様がご自身で書きましますね。